

## JIS 認証取得のメリット

JIS マークの表示は、製品が該当する JIS（日本工業規格）に規定された基準（要求事項）を満たしていることを示すものであり、企業間の取引や公共調達の際の容易な識別・信頼の指標として、また消費者が安心して製品を購入するための指標として用いられてきている。また、製造工場の品質管理体制が工業標準化法・JIS マーク省令に規定された基準に適合し、かつ当該工場で製造された製品が該当 JIS の要件を満足していることについて登録認証機関の厳格な評価を受け、それらの適合性が確認された事業者のみが JIS マークを表示できる資格を付与されるものであることから、JIS マーク表示製品は信頼のおける製造業者の下で製造された確かな製品であることを示すものである。

JIS 認証を取得した事業者は、市場において、製品の安心・安全、高品質をアピールできる最適な手段を確保したことになる。

JISCBA が平成 23 年末に実施した国内の JIS 認証取得事業者を対象としたアンケート調査の結果、JIS 認証取得の具体的なメリットが浮き彫りされた。

まず、アンケート回答者の 80%が効果ありと評価した「**対外的な信用度が向上する**」ことがまさに最大のメリットである。“取引先との打合せなどの時に JIS マーク表示品を扱っていることをアピールして安心感を持ってもらっている”、“官公庁では、JIS 認証を取得しているということで高い評価を受けている”や“中国、東南アジア等への輸出においては JIS 認証製品の信用度は高い”といった認証取得者の声があるように、顧客等から高い信頼をうけることができる。

次に、製品分野や種類によって多少の差異はあるが、「**事業の維持・拡大に寄与**」するのも大きなメリットである。

今後公共調達への活用がますます促進され、また市場関係者の JIS 認証に関する理解度が増すことによってこのメリットをさらに享受することが期待できる。“JIS 認証取得によって JIS 対象品以外の製品の注文が増加した”や“今まで見

向きもしてくれなかった大手から取引を認められた”といったアンケート回答にあるように対外的な信用度が増すことによって新たな販路の拡大が図れる。

さらに、認証取得の為に確立した品質管理体制の社内的な活用の仕方によって、「品質や技術の向上」や「人材の育成」に効果を発揮できるとともに次のようなメリットを享受できる。

JIS 認証取得によって事業場全体の品質に対する意識、姿勢が変化し、品質向上に役立ち、人的ミスの軽減につながる。また、社内標準化により、記録の管理、試験機器の管理などの業務の効率化が図られ、また、品質目標が明確となりコストパフォーマンスが向上する。

(認証取得者からの回答事例)

- JIS 認証取得で、会社全体の品質管理に対する意識が向上し、品質管理の重要性を認識、全社の品質管理向上に役立っている。
- JIS 認証の要求性能（省令、認証指針等）が明確である点が、品質管理に有利であり、設計、製造、検査工程での具体的な品質目標を浸透させやすい。
- 事業場内の品質管理や標準化の面では、JIS 制度上要求されている管理項目の見直し（改訂）を行うため最新版管理が維持されるようになった。
- 頻繁に検査を行い問題点の提起を工場に伝え、工程内の検証と会議を開いての改善計画が実施できるようになった。
- JIS 品質管理責任者講習を受講した社員を増やし、品質管理に対する社内のウェイトを増やすことができた。また、社内教育をマニュアルに明記し、教育訓練が実施できたことにより、人的ミスが軽減されてきている。
- JIS の要求性能をクリアする為の設計基準となり 更なる改善やコストパフォーマンスを図る為の指標としている。具体的には、某製品の製品試験における試験設備の仕様は、用途に沿った限定な内容であり、要求される品質性能を確実に検証できるものである。ただ、各試験設備の他試験への併用には無理があり、使用頻度によっては設備の維持管理に難しい面もある。そのような状況の中で、定期的な JIS 認証維持審査や変更時の確認試験に備えて校正・点検を実施するとともに、製品の使用変更時や他の内部確認試験での記録管理など無駄を省きつつ有効に機能させている。
- 技術基準が明確な為、人的、物的整備を具体的に進められ、生産活動に反映できる。

ISO9001 認証工場の場合、JIS 認証を取得することで、JIS マーク品指名の顧客対応が可能となるとともに、品質管理も JIS（製品保証）と ISO9001（システム確立）の両立により効率化が図られる。

（認証取得者からの回答事例）

- ・ ISO9001 でシステム体系を確立しており、そこに JIS を取得することで自社製品の品質レベルを知ることができ、さらに、ISO 手法を導入することで継続的改善として製品レベルの向上を図ることに結び付けている。
- ・ JIS を先に取得しており、JIS をベースにして ISO9001 を取得したため、比較的楽に ISO9001 が取得できた。品質システムは ISO9001 で行い、製品の品質管理は JIS で行っている。
- ・ JIS 認証は、ISO9001 と合せて取得している。これらの品質システムを有効に活用することで、品質維持・向上が図れていると考えている
- ・ JIS の具体的な品質管理要求事項を、ISO9001 の規格要求と上手く整合させることで効率よく、効果的に品質管理が運用できる。両方を 1 本化したシステムで効率的に運用している。
- ・ ISO9001 品質管理者と JIS 品質管理責任者を同じ人間が行っているため、効率よく運用できている。

JIS の要求事項以上の品質を要求される場合、JIS を満足させることをベースとして、間違いのないステップアップが図られる。

（認証取得者からの回答事例）

- ・ 原子力の配管関係では、JIS の要求以上の要求があるが、JIS を満足させることで相応の品質を確保し、更なるステップアップを図ることで対応した。

商品構成として JIS マーク品が数%しかなくても、JIS 認証を取得していることによる信頼性から JIS マーク非表示品も売れる可能性が高い。

（認証取得者からの回答事例）

- ・ 顧客要求事項にこたえるためのシステム作りと環境および施設、設備の拡充のための裏付けができたため、さらに事業を発展させることが可能になった。
- ・ 認証取得者のホームページを見て、JIS 製品を含めて、その他製品の注文をもらうケースもあり、事業の維持・拡大に効果が上がっている。
- ・ JIS 認証を取っている製品をセールスポイントの 1 つとして利用しているが、営業活動しやすい。
- ・ JIS マーク品は 5%程度であるが、JIS マーク非表示品も JIS 認証取得メーカーの製品として売り上げが伸びている。

ISO14001 のみの取得工場においては、JIS 認証取得により、カバーされていなかった品質管理体制が整備され、確立できる。

(認証取得者からの回答事例)

- ・申請者工場は、ISO14001 は取得し、品質管理体制も整備していたが、一部工程の社内外注事業所は独自の品質管理を行っていた。JIS 認証取得にあたり、外注工場も申請者工場の品質管理体制に組み込むことが要求され、これを機会に申請者工場のみならず外注工場の品質保証体制も確立された。

JIS マーク非表示品との差別化が図られアジアにおいて信頼を得ることが出来る。

(認証取得者からの回答事例)

- ・中国、東南アジアにおいて、日本製品に対する信頼が高く、JIS 認証で高品質の製品を確保できると考えられている。
- ・特に鉄鋼製品等において、自動車や家電など、日本企業の海外トランスプラントが関わって JIS マーク品の需要を喚起している。
- ・土木建築用途においても、日本のゼネコンとの係わりで、また、外国製品との識別のために、JIS マーク品が求められる事例が出ている。
- ・B7501 精密水準器・B7512 鋼製巻尺等の測定機器、M7624 安全帯等の安全用具、B2061 給水栓・S2400 陶磁器製耐熱食器等の飲食に影響する製品等については、JIS 認証の取得、JIS マークの表示がアジアへの輸出に有利となるケースがある。

上記以外にも、認証取得事業者から次のようなメリットがあるとのコメントが寄せられている。

- ・客先と新規・継続時の取引調査書類が、簡素化される。
- ・製品の立会試験や複雑な資料の提出がなくなる。
- ・金融機関等への信用が獲得できる。
- ・社内標準として、標準化の基本エッセンスがほぼ網羅されているので、教育資料としても有効。

以上